

教科書の単元・題材構成

●美術 1 (38 光村 美術 I 004)

ページ	枠	単元	題材
2～3			目次／前書き
4～5	色の世界		色彩の輝き
6～7			色のしくみ
8～9			色を見つける、色を組み合わせる
12～13	かたちをとらえる		かたちと向き合う
14～15			見えるものの向こうに
16～17			光とかたち
20～21	風景を描く		心の目で見つめる
22～23			想像の世界
30～31	空間をとらえる		奥行き表現
32～33			空間との対話
34～35			内なる空間を求めて
38～39	映像の展開		瞬間の把握
40～41			体で感じる映像の世界
46～47	メッセージの伝達		文字とデザイン
48～49			情報伝達のデザイン
50～51			画像によるデザインの広がり
54～55	生活の中のかたち		手で使う道具のデザイン
56～57			動きとデザイン
58～59			素材を生かすデザイン
18～19	作家の生涯と作品		三岸好太郎
36～37			イサム・ノグチ
60～61			チャールズ&レイ・イームズ
24～25	作品鑑賞室		春の喜び
44～45			舞のリズム
10～11	鑑賞の深い楽しみ	見る・知る・学ぶ	点で描く
26～27			日本絵画のデフォルメ
42～43			パフォーマンスを組み立てる
62～63	テーマ展示室		アンコールの遺跡群
28～29			目の遊び
52～53			イラストレーションの世界
68～69	作家インタビュー		神話や伝説の動物たち
76～77			人の姿をとらえる
64			オノ・ヨーコ
65	ジャスパー・モリソン		
66	遠藤彰子		
67	水木しげる		
70	資料編		写真と映像の展開
71～74			美術史年表
75			美術館を活用しよう
78～79			後書き

●美術 2 (38 光村 美術 II 003)

ページ	枠	単元	題材
2～3			目次／前書き
4～5	自然から学ぶ		自然を見つめて
6～7			自然との対話
8～9	自然と造形	自然素材の魅力	木の素材感を生かす
10～11			石や土から生まれるかたち
12～13			大地のエッセンス、絵の具と金属
46～47	生活から生まれるかたち		座するための道具「椅子」
48～49			自然との共生
16～17	制作にあたって		色とかたちのバランス
18～19			制作のためのスケッチ
20～21			メッセージを伝えるために
28～29	創作への手がかり	表現の手法	絵の具のマチエール
30～31			「版」を重ねて
32～33			共同でつくる
38～39	作家の生涯と作品		紙で立体をつくる
40～41			写真を使って
42～43			アニメーションをつくる
14～15	作家の生涯と作品		ジョージア・オキーフ
36～37			亀倉雄策
24～25	作品鑑賞室		幻想の世界
34～35			ヒエロニムス・ボッシュ
22～23			動植物の饗宴
44～45	見る・知る・学ぶ		伊藤若冲
26～27			身近なものを素材に飾りの美と簡素の美
50	テーマ展示室		自己を見つめる
51			伊東豊雄
52	作家インタビュー		石岡瑛子
53			村上隆
54～55			ジュニー・ホルツァー
			後書き

●美術 3 (38 光村 美術 III 003)

ページ	枠	単元	題材
2～3			目次／前書き
4～5	美術・デザインと社会	美術作品と出会う場	美術館で作品と出会う 国立西洋美術館
6～7			美術館で作品と出会う 東京国立博物館
8～9			公共の場で作品と出会う
10～11	文化遺産の保存と継承		ユネスコの世界遺産
12～13			絵画の修復
16～17	生活とデザインのかかわり		優しさのデザイン
18～19			デザインとエコロジー
24～25	美術・デザインの歴史に触れる	温故知新	人体の表現をめぐる
26～27			響き合うイメージ
32～33	近代のデザインと建築		書物と文字のデザイン
34～35			現代デザインの始まり
36～37			祈りの場をつくる
14～15	作家の生涯と作品		岡本太郎
22～23			濱谷浩
30～31			パウル・クレー
20～21	鑑賞の深い楽しみ	見る・知る・学ぶ	時代の精神を感じて
28～29			大胆な日本の造形感覚
38	作家インタビュー		川崎和男
39			大野美代子
40			早川良雄
41			小川待子
42～43			後書き

光村図書

高等学校用

美術1・2・3

内容解説資料

- 増ページでさらに内容を充実
- 3冊で850点の図版を掲載
- 多様な鑑賞体験を提案
- 現在活躍中の作家インタビュー掲載

3冊を通して、美術文化の魅力と奥深さを伝えます。

平成23年度版教科書 検討の観点と内容の特色

高等学校用

美術 1

科目名	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術	美術 1	38 光村	美 I 004	光村図書出版

項目	観点	特色・具体例
1 内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領、教科書の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ●基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習指導要領に示された「美術 I」の目標・内容をふまえ、A表現、B鑑賞の題材がバランスよく、しかも相互に関連をはかりながら適切に配置されている。 ◇「色の世界」「かたちをとらえる」「空間をとらえる」など、基礎的な表現活動に直接かかわるテーマで題材を設定しているため、基礎的な内容が理解しやすい。 ◇基礎的な学習内容を押さえながら、歴史や社会に対する関心へと視野が広がるように、教科書が全体で一つの流れになるようにまとめられている。
2 組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「美術 I」の学習に必要な題材が、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の各分野から、バランスよく取り上げられている。そのため、生徒や学校の実態にあわせて内容を選択することができ、効果的な学習指導ができる。 ◇古典的な絵画・彫刻作品などから現代の表現まで、幅広い時代の表現が適度な分量で取り上げられている。また、日本の美術、西洋の美術、中国・東南アジア諸国、アフリカの美術などが多角的に紹介されている。 ◇「造形の基本要素」という枠組みでは、制作にかかわる一つの題材をテーマにした単元が、4ページから6ページにわたって発展的に設けられている。 ◇「鑑賞の深い楽しみ」という枠組みでは、「作家の生涯と作品」「作品鑑賞室」「見る・知る・学ぶ」「テーマ展示室」という切り口の異なる鑑賞の単元が設けられ、多角的な鑑賞体験への提案が適度な分量で行われている。 ◇「作品鑑賞室」という単元では、1点の作品が解説文を添えずに1ページ大で掲載され、見開きで西洋と日本の作品の比較鑑賞を行うことができるようになっている。そのため、生徒は自由な見方や解釈で作品に触れることができる。 ◇映像メディア表現については、写真や映像を使った作例を数多く紹介するとともに、映像メディア表現を取り入れた高校生の活動を大きく取り扱っているため、生徒の興味・関心を深めながら学習指導を進めることができる。 ◇「作家インタビュー」では、美術家やデザイナーの生き方や考え方、表現活動への強い意志を生徒へのメッセージとして伝えている内容で、生徒の美術への興味・関心を喚起させる。また、生徒に仕事や職業について意識させる内容である。
3 表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ●学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ●用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 ●印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ページの意図に沿っためりはりのきいたレイアウトや、作品理解のためのキャプション・解説など、生徒が掲載作品を深く理解できるような工夫が随所になされている。 ◇両観音開きの年表があり、美術史の流れを視覚的に理解できるよう配慮されている。社会・政治史も併記されているため、美術と歴史・社会とのかかわりも理解できる。 ◇用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。 ◇活字は鮮明で読みやすい大きさ・書体である。写真・図版も鮮明で効果的である。また、製本も堅牢である。 ◇表紙はビニールコーティング加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できるようになっている。 ◇造本においては、再生紙・大豆油インキを使用し、環境に配慮している。
4 総合所見	<ul style="list-style-type: none"> ●上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各テーマのもとに多種多様な作品を提示してあるため、創造への意欲が刺激され、生徒が自発的に表現方法を選び取ることもできる。「感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす」という「美術 I」の学習指導要領の目標に合致している。

平成23年度版教科書 検討の観点と内容の特色

高等学校用

美術 2

科目名	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術	美術 2	38 光村	美Ⅱ 003	光村図書出版

項目	観点	特色・具体例
1 内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ●基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習指導要領に示された「美術Ⅱ」の目標・内容をふまえ、A表現、B鑑賞の題材がバランスよく、しかも相互に関連をはかりながら適切に配置されている。 ◇造形活動の基本的事項である、木や土、石、金属といった自然素材の特性や、絵の具、紙などの特性を丁寧に取り上げているため、基礎的な内容が理解しやすい。 ◇基礎的な学習内容を押さえながら、自然や環境に対する関心へと視野が広がるように、教科書が全体で一つの流れになるようにまとめられている。
2 組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「美術Ⅱ」の学習に必要な題材が、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の各分野から、バランスよく取り上げられている。そのため、生徒や学校の実態にあわせて内容を選択することができ、効果的な学習指導ができる。 ◇「創作への手がかり」という枠組みでは、構図やスケッチ、版画の制作過程、写真やアニメーションの共同制作など、制作にかかわるさまざまな手法が適切な分量で紹介されている。 ◇映像メディア表現を取り入れた高校生の活動を積極的に取り上げている。また、教科書の隅に図形が印刷されていて、パラパラ漫画の要領でアニメーションの原理を体験することができるため、生徒の興味・関心を深めながら学習指導を進めることができる。 ◇「作品鑑賞室」という単元では、解説文を添えずに作品が大きく掲載されている。そのため、生徒は自由な見方や解釈で作品に触れることができる。また、作品の全図だけでなく、部分拡大図も掲載されているため、細部にわたって入念な鑑賞が可能である。 ◇「作家インタビュー」では、建築家やデザイナーの生き方や考え方、表現活動への強い意志を生徒へのメッセージとして伝えている内容で、生徒の美術への興味・関心を喚起させる。また、生徒に仕事や職業について意識させる内容である。
3 表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ●学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ●用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 ●印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全ページ4色刷りの鮮明で臨場感のある図版は、生徒の学習意欲を喚起することができる。 ◇解説文には「……学ぼう」「……しよう」など能動的な表現が多く、生徒が主体的に学習に取り組むことを示唆している。 ◇現代の生活に根ざした作品や著名な作家の言葉、インタビューを掲載することで、生徒にとって美術やデザインが身近なものに感じられるように配慮し、また、美術やデザインを生活に生かせるような主体的学習態度の育成につながるよう工夫している。 ◇用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。 ◇活字は鮮明で読みやすい大きさ・書体である。写真・図版も鮮明で効果的である。また、製本も堅牢である。 ◇表紙はビニールコーティング加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できるようにしている。 ◇造本においては、再生紙・大豆油インキを使用し、環境に配慮している。
4 総合所見	<ul style="list-style-type: none"> ●上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「美術Ⅱ」の学習内容にふさわしい教材が多数掲載されており、教材の取捨選択が可能で、実態に応じた授業が組み立てられる。 ◇多様な造形表現を丁寧な解説と美しい図版で紹介し、美術・デザインのすばらしさを十分に伝えることができる教科書である。

平成23年度版教科書 検討の観点と内容の特色

高等学校用

美術 3

科目名	教科書名	番号・略称	記号・番号	出版社名
美術	美術 3	38 光村	美Ⅲ 003	光村図書出版

項目	観点	特色・具体例
1 内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材が適切に用意されているか。 ●基礎的、基本的事項の理解や、その習得のため、適切な配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習指導要領に示された「美術Ⅲ」の目標・内容をふまえ、A表現、B鑑賞の題材がバランスよく、しかも相互に関連をはかりながら適切に配置されている。 ◇作品の収集・保存や展示にかかわる「美術館」という組織の役割、ユネスコの世界遺産や美術作品の修復の意義などが詳しく取り上げられているため、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てることができる。 ◇「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」で培った基礎的な学習内容をふまえ、造形表現の歴史に対する理解をうながすよう配慮されている。また、美術とデザインの社会的な役割を明確に意識させ、理解をうながすよう配慮して単元が構成されている。
2 組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の組織、配列、分量は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「美術Ⅲ」の学習に必要な題材が、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の各分野から、バランスよく取り上げられている。そのため、生徒や学校の実態にあわせて内容を選択することができ、効果的な学習指導ができる。 ◇「美術・デザインと社会」という枠組みでは、美術館の役割や文化財の保護・修復や、使う人の立場や環境への配慮を重視したデザインの提案など、社会的な題材が適度な分量で取り上げられている。 ◇「美術・デザインの歴史に触れる」という枠組みでは、「温故知新」「近代のデザインと建築」などの単元を設定し、過去の作例が現代とどのようにかわるのかという視点から選ばれた題材が適度な分量で取り上げられている。 ◇「作家の生涯と作品」という単元では、社会と密接に関係しながら創造活動を展開した岡本太郎や濱谷 浩を紹介している。 ◇「作家インタビュー」では、美術家やデザイナーの生き方や考え方、表現活動への強い意志を生徒へのメッセージとして伝えている内容で、生徒の美術への興味・関心を喚起させる。
3 表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ●学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 ●用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 ●印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ページの意図に沿っためりはりのきいたレイアウトや、作品理解のためのキャプション・解説など、美術に親しむ心情を伸ばすための工夫が随所になされている。 ◇用語や表記は統一されており、記述のしかたも適切である。 ◇活字は鮮明で読みやすい大きさ・書体である。写真・図版も鮮明で効果的である。また、製本も堅牢である。 ◇表紙はビニールコーティング加工により、画材や粘土などによる汚れにも対応できようになっている。 ◇造本においては、再生紙・大豆油インキを使用し、環境に配慮している。
4 総合所見	<ul style="list-style-type: none"> ●上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇美術・デザインの社会への広がり、美術・デザインの歴史を学ぶことにより、職業としての美術、ひいては生涯にわたって美術にかかわっていかうとする態度を育てていくことができる。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>

この資料に掲載されている「検討の観点と内容の特色」をはじめ、「年間指導計画」や「ワークシート」などは、ホームページからダウンロードすることができます。

光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 電話 03-3493-2111 (代表)